

ヨハネの福音書 第3章 16節

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

ここに神がどれほど世を愛するお方かが語り尽くされています。神がどれほどの広さをもって愛されるお方であるかを語ります。その愛に応答する者がどのように変えられるか語ります。滅びることなく、永遠のいのちを持つためと語ります。誰一人滅んではいけない叫びといえます。ひとり子をお与えになるほどの愛の叫びです。

これほどの愛と広がりが見える気がします。散歩道の駅近く、芝生が刈り取られています。初夏のころの青々とした芝生からは新鮮な緑の香りがします。どこかで出会った香りと思いながら歩きます。思い出します。海を渡っていたころ、ブルーグラスと言われ、延々とつづく芝生が育つ地域の香りと同じです。ひとりのお方によりもたらされた草の香りは世界を通して同じです。そのお方の愛が世界に広がっていることを垣間見せます。

また、この駅の周辺には様々な薔薇が咲き誇っています。これもまた、薔薇の国の様子と同じです。世が深く、広く愛されています。永遠のいのちを持つためです。